



指導精神綱要

早稲田大学

一 早稲田大学の教育は正しく倫理的基礎の上に立つべき
 ことは言説を要せず特に之を時代に即して當果的に
 言へば本大は日本帝國國家に於ける学園として
 其正當性を使命の最善の體現と期すと同時に大学の
 現代に於ける歴史的任務に對して十分なる使命の委せ
 本大が独自の系統的使命の積極的實現と期すもの
 也

二 高等学院より大学に如く(専門的及高師包含)を
 制の根本刷新はかねより本学園の急務とす所あり
 其詳細に涉る根本革新は逐次填塞ある研究と兼ねて
 近き將來と期して實現すること、し能しむるに於て根本制

昭和 年 月 日





早稲田大学

新の精神として改定を必要とする意味に於ては
尚の自主的自由討究を以て言ふべきを以て幸へ目下
新校舎の建築に竣工と見んとすこと誠として其一定
部と各学部の研究室(増設研究室)に在る之により
先づ学制改革の根本精神の實現を期すべしなり也
三 戦前改正の精神 (西学院に於ては特許研究を以て)

四 学園経営経済の綱要とし私立大学の経営に如何に
重大な困難を極むるものありを以て示すこと

五 ^生学務委員会及び表委員合規則制定の精神及
形式

昭和 年 月 日